



欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要						
建物名称	伊豆太陽農業協同組合 伊豆太陽地区本部・下田支店 建設工事	BEE	1.2	BEEランク	B+	★★★

2. 重点項目への取組み度						
重点項目	得点*/満点		取組み度		評価	
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	3.7	/5			ふつつ	
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	2.8	/5			がんばろう	
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	2.9	/5			がんばろう	
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	2.1	/5			がんばろう	
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)			評価 凡例	よい 4 点以上	ふつつ 3 点以上	がんばろう 3 点未満

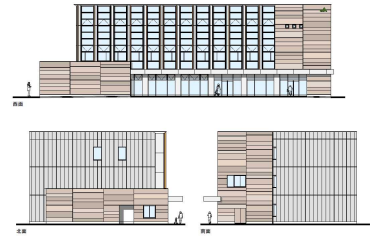
3. 重点項目についての環境配慮概要			内訳対応項目			
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。						
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進(Global Warming)			得点		3.7	
	■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) ④高耐久性に優れた外壁材の採用。 ④高耐久性に優れた内装材の採用。 ④耐久性に優れた設備配管の採用。	Q-1 2 2.1 2.12 ① Q-1 3 3.1 3.13 ② 3.2 3.2.1 ③ Q-2 2 2.2 2.2.1 ④ 2.2.2 ④ 2.2.3 ④ 2.2.4 ④ 2.2.5 ④ 2.2.6 ④	① 外皮性能 ② 昼光利用設備 ③ 昼光制御 ④ 躯体材料の耐用年数 ④ 外壁仕上げ材の補修必要間隔 ④ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 ④ 空調換気ダクトの更新必要間隔 ④ 空調・給排水配管の更新必要間隔 ④ 主要設備機器の更新必要間隔			
	■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上)	Q-3 1 3 3.2	⑤ 生物環境の保全と創出 ⑥ 敷地内温熱環境の向上			
	■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) ⑦断熱性に優れた外壁材の採用。	LR-1 1 2 3 4 4.1 4.2	⑦ 建物外皮の熱負荷抑制 ⑧ 自然エネルギー利用 ⑨ 設備システムの高効率化 ⑩ モニタリング ⑩ 運用管理体制			
	■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) ⑪節水機能のある設備機器の採用。 ⑫リサイクル材の活用。 ⑬将来の解体時における躯体と仕上げ材の分別の容易化を計画。 ⑬有害物質の少ない建材を採用。 ⑬ODP値、GWP値の小さい発泡系断熱材の採用。	LR-2 1 1.1 1.2 1.2.1 1.2.2 ⑪ 2 2.1 2.2 ⑫ 2.3 ⑫ 2.4 ⑫ 2.5 ⑫ 2.6 ⑫ 3 3.1 3.2 3.2.1 3.2.2 ⑬ 3.2.3 ⑬	⑪ 節水 ⑪ 雨水利用システム導入の有無 ⑪ 雑排水等利用システム導入の有無 ⑫ 材料使用量の削減 ⑫ 既存建築躯体等の継続使用 ⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用 ⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材 ⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み ⑬ 有害物質を含まない材料の使用 ⑬ 消火剤 ⑬ 断熱材 ⑬ 冷媒			
	■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善)	LR-3 1 2 2.2	⑭ 地球温暖化への配慮 ⑮ 温熱環境悪化の改善			
"災害に強いしずおか"の形成(Disaster)			得点		2.8	
	■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性)	Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯ 2.1.2 ⑯ 2.4 2.4.1 ⑰ 2.4.2 ⑰ 2.4.3 ⑰ 2.4.4 ⑰ 2.4.5 ⑰	⑯ 耐震性 ⑯ 免震・制振性能 ⑰ 空調・換気設備 ⑰ 給排水・衛生設備 ⑰ 電気設備 ⑰ 機械・配管支持方法 ⑰ 通信・情報設備			
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進(Universal Design)			得点		2.9	
	■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) ⑲ゆとりある階高を確保。 ⑲自由度の高い平面計画を目指す。	Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱ 3 3.1 3.1.1 ⑲ 3.1.2 ⑲	⑱ ユニバーサルデザイン計画 ⑲ 階高のゆとり ⑲ 空間の形状・自由度			
	■室外環境(敷地内)対策 (⑳地域性・アメニティへの配慮)	Q-3 3 3.1	⑳ 地域性への配慮、快適性の向上			
"緑化及び自然景観"の保全・回復(Nature)			得点		2.1	
	■室外環境(敷地内)対策 (㉑生物環境の保全と創出/㉒まちなみ・景観への配慮/㉓敷地内温熱環境の向上)	Q-3 1 2 3 3.2	㉑ 生物環境の保全と創出 ㉒ まちなみ景観への配慮 ㉓ 敷地内温熱環境の向上			
	■敷地外環境対策 (㉔持続可能な森林から産出された木材/㉕温熱環境悪化の改善)	LR-2 2 2.5 LR-3 2 2.2	㉔ 持続可能な森林から産出された木材 ㉕ 温熱環境悪化の改善			

CASBEE[®]-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 ■使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	伊豆太陽農業協同組合 伊豆太陽地区	階数	地上3F
建設地	静岡県下田市東本郷一丁目12-6, 12	構造	S造
用途地域	近隣商業地域、準防火地域	平均居住人員	75 人
地域区分	7地域	年間使用時間	2,000 時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年8月 予定	評価の実施日	2020年10月8日
敷地面積	1,735 m ²	作成者	石垣 朝規
建築面積	876 m ²	確認日	
延床面積	2,080 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.2 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%
②建築物の取組み 82%
③上記②以外のオンサイト手法 82%
④上記+オフサイト手法 82%

0 46 92 138 (kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q2 サービス性能: 4
Q1 室内環境: 2
Q3 室外環境(敷地内): 2
LR1 エネルギー: 1
LR2 資源・マテリアル: 1

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.7

Q1 室内環境

Q1のスコア= 2.9

音環境: 3.6, 温熱環境: 2.6, 光・視環境: 2.4, 空気環境: 3.7

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.4

機能性: 3.6, 耐用性: 3.1, 対応性: 3.4

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 1.5

生物環境: 1.0, まちなみ: 2.0, 地域性・: 1.5

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.5

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.6

建物外皮の熱負荷: 5.0, 自然エネルギー: 3.0, 設備システ: 3.5, 効率的: 3.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.6

水資源: 3.4, 非再生材料の使用削減: 3.5, 汚染物質回避: 4.0

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.5

地球温暖化への配慮: 3.7, 地域環境への配慮: 3.5, 周辺環境への配慮: 3.3

3 設計上の配慮事項		
総合 これはCASBEE静岡(2016年版)による評価結果である。 ・快適で維持管理のしやすい執務空間とすることで環境品質が向上するよう努めている。 ・環境負荷の少ない建材の使用や周辺への環境対策に努めている。		その他 特になし。
Q1 室内環境 遮音性能や照度に優れ、また化学汚染物質放出量の少ない建材を使用するなど職員やお客さまにとって快適で安全な執務空間を形成している。	Q2 サービス性能 高耐久の仕上材や設備配管を採用している。また、機能的でゆとりある室内空間を確保しており、全体として耐用性に優れた空間となっている。	Q3 室外環境(敷地内) 特になし。
LR1 エネルギー 外皮の熱性能の向上に努めている。	LR2 資源・マテリアル リサイクル材や有害物質を含まない材料の使用して環境への悪影響の低減に努めている。	LR3 敷地外環境 大気汚染防止や光害の抑制に努めるなど周辺に与える環境負荷の低減に取り組んでいる。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
 ■LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい